

第2部

リアルな成功体験を聴く ～なぜ私は合格できたのか、その学習の軌跡 60分

担当講師 H26 予備合格・H27 司法合格 三国谷亮太さん

一橋大学4年在学中（予備合格時3年在学中）

①予備→司法合格体験談

- ・大学入ってからすぐに予備校講座を申し込むも、うまく進まず1年次はだらける。
- ・1年の冬ごろから本腰を入れて勉強を始める。
- ・2年次の予備試験を受験するも直前1か月で憲民刑の論文の勉強にシフトして短答は156点で落ちる
- ・次の年はせめて短答だけでも合格しようと思い、2月頃から短答の過去問を本格的に回し始める。ただ、民法、刑法、刑訴だけは論文の勉強を並行した
- ・短答対策は、上3は過去問パーフェクト、下4は肢別式の問題を繰り返した。下4も最後は過去問パーフェクトを1～2週位した。
- ・短答後、予備校の速報で合格点は余裕そうだったので論文の勉強にシフトした。
- ・論文の勉強は、時間が限られていたので、市販の演習所の類をひたすら答案構成しては解説を読む、という作業を繰り返した。答案を書くイメージはずっと作ってきたので、答案構成にとどめて、とにかく事例感覚を身に着けようと思った。
- ・論文後の夏休みは完全にだれて勉強時間もかなり減り、実務系の本を読み漁ったり、民法の基本書を通読したりした。（これが失敗であった）
- ・合格発表後、奇跡的に合格していたので、急いで口述の対策をした。辰巳の口述模試を受けなければ落ちていたと思う。
- ・口述に合格し、司法試験受験資格を得たが、しばらく論文を書いていなかったために論文作成能力がかなり落ちていた。しかし、年明けまでは勉強に身が入らなかった。
- ・年明けから本番まで徐々に勉強時間を増やし、スタ論をペースメーカーに勉強した。私は予備試験に合格した時点では知識が足りていないと思い込んでいたので、基本科目の強化に力を入れた。
- ・そして、今年無事合格
- ・予備試験後の勉強法で失敗
知識の強化よりも過去問の検討をもっとしっかりすべきであった。
選択科目をもっとしっかり詰めるべきであった。
これらをしっかりやっていたらもう少し順位は上げられたと思う。

MEMO

②具体的な予備司法論文対策の方法

MEMO

憲法

- ・まず、基本書や予備校本の抽象的な記載である程度全体像がみえたら、具体的な事例問題で知識を使える形にする。
- ・少し遠回りにも感じてしまうかもしれないが、駒村連載や論点教室、宍戸本、作法といった受験生向けに書かれた本を読むこと。
- ・事例の検討の仕方を把握する。例えば、問題文を読んで、事例を把握し、どのような行為が、どのような法令に基づいて、どのような処分によってどのような制約を受けているのかという法令の適用関係等を整理する。憲法問題に入る前提としてこの部分をおろそかにしない。そのうえで、法令、処分のいずれをとらえて憲法的に攻撃していくかを検討する。
- ・最近はやりの判例の射程

民法

- ・まずは、民法典に乗っている主要な法的権利等については、要件効果をしっかりと抑える。
- ・分量が多いので、各論点の位置づけをしっかりと頭で整理しておく。
- ・主要な論点の理解に注力する。
- ・どういった利益衡量を法が行ったのかを考える。
- ・事案の把握は訴訟物・請求原因・抗弁といった要件事実的な思考で整理する。
- ・論証は基本的に条文の趣旨から説いていく。

刑法

- ・刑法もまずは各犯罪の構成要件を正確に抑える。
- ・刑法の各論点、どの要件との関係で問題となるのかを位置付けておく。
- ・論点については、どのような場面で検討すべきなのかをしっかりと理解しておく。
- ・刑法理論（判例・学説）は道具に過ぎない。
- ・特に刑事系は、規範に対するあてはめ方にも注意する。
- ・事例問題をとにかく多く解く。
- ・最近の重要判例をおさえる。

③予備スタ論【少人数グループ指導】の進め方

- ・基本的には知識の詳細な解説はしない。
- ・自作の答案を見てもらって事例問題の検討における思考過程を見てもらう。
- ・受講生の方の答案を提示して、過不足を指摘して思考の手助け。
- ・事例問題をもとに普段からどのようなことを意識して学習するかのアドバイス。